

都市再生整備計画

おわりあさひし
尾張旭市やすらぎ拠点地区(第3回変更)

あいちけん おわりあさひし
愛知県 尾張旭市

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都道府県名	愛知県	市町村名	おわりあさひし 尾張旭市	地区名	おわりあさひし きよてんちく 尾張旭市やすらぎ拠点地区	面積	220	ha
計画期間	令和	3	年度	～	令和	6	年度	
交付期間	令和	3	年度	～	令和	6	年度	

目標
大目標「歩いて人もまちも健康になるまちづくり」 目標1：駅を拠点に移動しやすいまちづくり 目標2：安全・安心に歩いて暮らせるまちづくり 目標3：楽しく歩いて、健康増進が図れるまちづくり
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 尾張旭市(以下、「本市」という。)は、市北部に「森林浴の森100選」に選ばれ、第70回全国植樹祭会場にもなった森林公園が立地しているという優れた環境特性と、名古屋の中心までの所要時間が電車で約20分の距離であり、通勤通学に便利という立地条件から、住宅の供給が盛んで住宅都市の性格を強めてきました。 しかし、人口動態は、平成27年の国勢調査ではじめて減少に転じ、長期的にみて人口減少は避けられない状況にあります。高齢化率は、令和27年時点には人口のほぼ40%にまで達すると予想されます。財政に関しては、高齢化に伴い、老人福祉費を含む民生費の支出が増加しています。また、公共施設やインフラの老朽化対策などに多額の費用負担が必要な状況であることから、今後さらに財政状況が厳しさを増すと想定されます。 こうした本市の状況を踏まえつつ、尾張旭市立地適正化計画を策定し、「コンパクトシティ＋ネットワーク」の集約型都市構造を構築し、居住や都市機能の緩やかな誘導を図ることで、将来にわたり住みよいまち尾張旭として、持続可能な都市を実現します。
まちづくりの経緯及び現況
【本市の状況】 - 本市は、土地区画整理事業を積極的に推進し、計画的に整備された市街地が広がっている。 - さらに、本市は、「WHO健康都市連合」の設立メンバーとして、平成16年度には健康都市宣言、尾張旭市健康都市プログラムの策定などを行い、「健康都市」が本市のブランドとなるよう、保健・医療の面だけでなく、環境・教育など多方面の分野から健康都市づくりに取り組んでいる。 - 本市の中央から東部地域にかけては、都市再生整備計画(尾張旭市活力拠点地区)を活用して、誰もが住みやすさを実感し、市の活力拠点となるようなまちづくりを進めている。 【本地区のまちづくりの経緯と現状】 - 昭和50年代から土地区画整理事業を実施し優良な住宅地と都市基盤の整備が進められてきた。 - 平成9年に土地区画整理事業に合わせて名鉄瀬戸線に市内4つ目の駅として印場駅が整備された。 - 現在では、こうした基盤整備の実施により、本市の中でも地価の上昇率が最も高い地域となっており、子育て世代を中心とした人口も増加している地域である。 - 本地区の東名高速道路より西側の霞ヶ丘地区では、戦前から緑豊かな住宅地として開発された地区であることから、現在の土地区画整理のような基盤整備がされないまま狭い道路となっており、老朽化した家屋が残っているが、名古屋市に隣接していることから利便性が高く、細い路地を残したままのミニ開発が進んでいる。 - 国の登録有形文化財である「どうだん亭」をはじめ、寺社等の文化財が点在しており、大規模な公園もある緑豊かなやすらぎのある住空間となっている。 - 霞ヶ丘地区においては、平成30年に都市計画道路霞ヶ丘線が完成し、当該地区の交通量も増加したため、安全・安心な歩行空間の基盤整備が必要となっている。
課題
①市内4駅中で最も西に位置する名鉄印場駅を含む通路等はバリアフリー化されておらず、高齢者、障がい者、子育て世代などが移動しづらいため、時代に合った基盤整備をする必要がある。 ②区域内の土地区画整理事業が実施されていない地区では、道路や歩道などの基盤施設の不足がみられる。また、当地区には、市の貴重な歴史的資源で国の登録有形文化財となっているどうだん亭などもあるが、安全・安心に歩くことができないため、歩行空間を整備する必要がある。 ③本地区では、どうだん亭や寺社などの歴史的資源、市民の憩いの場である豊かな水辺空間の天神川や矢田川、緑豊かな小幡緑地等を活かしたウォーキングコースを設定し、楽しく歩いて健康増進が図れるまちを目指しているが、歩くことへの誘導ができていないため、ウォーキングコース等の周知や歩きたくなる歩行空間の創出をする必要がある。
将来ビジョン(中長期)
■尾張旭市第五次総合計画 本市は、豊かな緑や自然に加え、長年にわたる「健康都市」への取り組み実績が財産であり、人口減少・少子高齢社会において、市民・地域・事業者がこの貴重な財産を守り、活かし、次世代へ引き継ぐとともに、まちの魅力を高め、一人でも多くの市民に「住みやすいまち」と感じていただくことが、これからのまちづくりに重要と考えている。将来の都市像を「みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいまち 尾張旭」とし、実現に向け情報の共有を一層進め、市民・事業者・行政がお互いに自主性を尊重し、それぞれの特性を活かしながら「協働」によるまちづくりを進め、まちじゅうに元気があふれ、まち全体がまるで公園のように快適でやすらぎのある、いつまでも住み続けたいくなるまちを目指している。そして、その実現を図るため「みんなで支え合う健康のまちづくり」、「豊かな心と知性を育むまちづくり」、「快適な生活を支えるまちづくり」、「安全で安心なまちづくり」、「環境と調和したまちづくり」などを施策の柱として、まちづくりを進めている。 ■尾張旭市健康都市プログラム すべての市民がいつまでも元気でいきいきと暮らせるまちの実現を目指し、「寝たきりにさせないまちづくり」、「外に出かけたいくなるまちづくり」、「住み続けたいくなるまちづくり」という3つの施策方針に基づき、市民・事業者・行政が連携し、ハードとソフトの両面から健康都市づくりに向けた様々な事業を推進している。特に、健康都市リーディングプランの中で「まるごとウォーキングのまち」として安心して歩くことができる歩道の整備やネットワークの形成によりウォーキングに適した環境を整えることとしている。 ■都市計画マスタープラン 本市では、「ともに育てる 笑顔とうるおい あふれるまち」をテーマとして都市づくりを進めている。 市全体の都市構造において印場駅を地域拠点として周辺が良好な住環境を提供する「やすらぎゾーン」、小幡緑地をうるおい拠点として天神川や矢田川をうるおい軸として位置付けている。 本地区が該当する西部地域では、小幡緑地などの緑地の保全、矢田川等の水辺空間の活用、印場駅の拠点性の強化、歩いて暮らせるまちづくりを地域の重点方針としている。

都市構造再編集集中支援事業の計画							
都市機能配置の考え方 本地区は、土地区画整理事業を実施し優良な住宅地として都市基盤の整備を進めてきましたが、名鉄印場駅を含む通路等はバリアフリー化されていません。そのため、時代にあった都市機能の充実を図ります。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等 ●駅周辺の道路を整備することにより、交通事故の防止と駅及び駅周辺の整備や利便性に対する市民満足度の向上を目指します。 ●駅周辺の案内板等を整備し、観光やウォーキングをしやすくすることで、健康な生活を送っている市民割の増加を目指します。							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
名鉄瀬戸線の駅及び駅周辺の整備や利便性に満足している市民割合	%	駅(名鉄瀬戸線)及び駅周辺の整備や利便性について、「満足している」「やや満足している」と回答した市民の割合(アンケート調査)	地区の拠点に交通がしやすいまちの形成を、駅及び駅周辺の整備や利便性を満足している市民の割合で評価する。	26.0	令和元年度	35.3	令和6年度
年間の人身事故発生件数	件	年間(1月から12月)の人身事故発生件数(警察署定期調査)	歩道整備が充実し、安心して暮らせるまちの形成を、年間交通事故の件数で評価する。	23	令和元年度 (平成31年1月から令和元年12月)	15	令和6年度 (令和6年1月から12月)
健康な生活を送っている市民割合	%	健康な生活を送っていることについて、「送っている」「まあまあ送っている」と回答した市民の割合(アンケート調査)	観光やウォーキングを楽しみながら、健康増進を図ることができるまちの形成を、健康な生活を送っている市民の割合で評価する。	56.1	令和元年度	61.2	令和6年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
■駅を拠点に移動しやすいまちづくり ・名鉄印場駅のバリアフリー化を行うことで、誰もが移動しやすい環境を形成する。 ・駅周辺の道路整備を行うことで、駅を拠点として円滑に移動できるまちづくりを目指す。 ■安全・安心に歩いて暮らせるまちづくり ・歩道整備が充実し、安心して歩いて暮らせる環境の充実を図る。 ・歩いて暮らせるまちを実現することで、健康につながるまちづくりを目指す。 ・歩行者が安全に歩くことができる環境を充実させ、人々が行きかうことができる都市基盤整備を進める。 ■楽しく歩いて、健康増進が図れるまちづくり ・名鉄印場駅にまちの案内板を充実させることで、市の名所に行きやすい環境づくりを行う。 ・印場駅等に設置しているウォーキングマップを見やすくすることで、歩きたくなる環境づくりを行う。 ・人が行きかいやすい都市基盤整備をすることで、駅周辺や市の名所に賑わいが創出され、人と人がふれあうまちを目指す。	【基幹事業】 ・道路：(都)霞ヶ丘線整備事業 ・地域生活基盤施設：印場駅バリアフリー整備事業 ・地域生活基盤施設：印場駅前案内板整備事業、ウォーキングマップ整備事業 【提案事業】 ・事業活用調査：事業効果分析調査 【関連事業】 ・印場駅乗降スペース整備事業 ・印場元町地内道路整備事業 ・市道東名1号線歩道整備事業 ・ゾーン30設定検討事業 【基幹事業】 ・道路：市道霞ヶ丘9号線道路改良事業 ・道路：(都)霞ヶ丘線整備事業 ・地域生活基盤施設：印場駅バリアフリー整備事業 ・地域生活基盤施設：ウォーキングマップ整備事業 【提案事業】 ・地域創造支援事業：(都)霞ヶ丘線安全施設整備事業 ・事業活用調査：事業効果分析調査 【関連事業】 ・印場駅乗降スペース整備事業 ・印場元町地内道路整備事業 ・市道東名1号線歩道整備事業 ・(都)霞ヶ丘線残地活用事業 ・天神川周辺歩道整備事業 ・ゾーン30設定検討事業 【基幹事業】 ・道路：市道霞ヶ丘9号線道路改良事業 ・地域生活基盤施設：印場駅前案内板整備事業、ウォーキングマップ整備事業 【提案事業】 ・地域創造支援事業：(都)霞ヶ丘線安全施設整備事業 ・事業活用調査：事業効果分析調査 【関連事業】 ・印場元町地内道路整備事業 ・市道東名1号線歩道整備事業 ・天神川周辺歩道整備事業 ・矢田川散歩道ウォーキング啓発事業 ・あさひ健康マイスター手帳事業 ・ゾーン30設定検討事業	
その他		
・ゾーン30の設定について 安心して歩ける施策として、地区内でゾーン30の設定を検討する。 ・住民参加型のまちづくりの推進 (都)霞ヶ丘線残地整備について、周辺の住民から提出された要望を参考に、住民ニーズにあった整備を検討する。 ・交付期間中の計画の監理について 交付期間中は、都市整備課が中心となり、定期的に事業進捗状況や、事業進捗上の問題点について関係各課と連携して確認することにより、事業遅延等のリスクを軽減させる。		

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

統合したB/Cを記入してください

6...B

...C

(參考)都市構造再編集集中支援関連事業

(参考) 関連事業

尾張旭市やすらぎ拠点地区(愛知県尾張旭市)	面積	220 ha	区域	霞ヶ丘町南の全部、霞ヶ丘町中の一部、東名西町一丁目、二丁目の全部、桜ヶ丘町西、二丁目、三丁目の全部、桜ヶ丘町一丁目の一部、白鳳町一丁目、二丁目の全部、印場元町北山、細田、北島、一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目の全部、庄中町洪川、一丁目、二丁目、三丁目の全部、洪川町二丁目の全部、洪川町一丁目、三丁目の一部、東印場町二丁目、三丁目の全部、旭前町二丁目、三丁目、四丁目、六丁目の全部、旭前町五丁目の一部
-----------------------	----	--------	----	--

